

国語

表現の工夫をし効果的に説明する書くことの学習指導

浦安市立日の出小学校教諭（前同市立美浜南小学校教諭） ^{あべ だいすけ} 阿部 大輔

書くことの指導では、効果的な表現の工夫や学習指導過程の一方向的な硬直化に課題があると指摘されている。書くことの目的や相手を意識させるとともに、話題を明確化し、学習指導過程を柔軟に構成しながら、効果的に表現の工夫をする力を児童に付けさせる必要がある。そこで、本研究では、全校児童の防災・防犯意識を高める文章を書くという場の設定をした。学校独自の「防災・防犯パンフレット」を書く中で、学習者が学習過程を適宜さかのぼって学習できるようにし、学習の質の向上をねらった。これらを通して、学習の質の向上を図りながら、効果的に表現の工夫をする力を身に付けさせていった。

社会

地域社会の一員としての自覚を高めるための社会科学習の在り方 —第4学年「残したいもの・伝えたいもの」における地域の重層性に着目した単元構成を通して—

横芝光町立光小学校教諭（前山武市立睦岡小学校教諭） ^{つつみ りゅうへい} 堤 隆平

本研究は、第4学年の「残したいもの・伝えたいもの」において、地域社会の一員としての自覚を高めるための効果的な単元構成を明らかにすることを目的としたものである。

地域社会の一員としての自覚を高めるために、地域の重層性に着目し、社会的事象の見方・考え方を働かせ、自分の地域から市内、県内へと学習内容を広げていく単元構成で授業を行った。この単元構成を通して、児童はお祭りが続いている意味や特色、よさを考え、理解することができた。また、自分が関わる地域の課題を理解し、課題意識を高めながら、これからのお祭りへの関わり方を考えることができた。この単元構成は、地域社会の一員としての自覚を高めるために有効であることが明らかになった。

社会

課題解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力を育成する指導方法の在り方 —今後の地域の方向性を考える学習過程を通して—

館山市立北条小学校教諭（前同市立房南小学校教諭） ^{まえだ やすたか} 前田 康貴

本研究は、5年生「わたしたちの生活と食料生産『野菜づくりのさかんな地域』」の単元において、今後の地域の方向性を考える学習過程を組み、課題解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力を育成しようとしたものである。

その結果、「後継者不足に対する今後の方向性を、自地域の実態等に着眼しながら選び、現実的な考えとして決める力」、すなわち「課題解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力」を育成することができた。

このことから、課題解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力を育成する上で、今後の地域の方向性を考える学習過程を組むことの有効性が、明らかになった。

算数

**統計的な見方・考え方を育成するための算数科指導
ー統計的探究プロセスに焦点を当てた短時間授業動画の活用を通してー**山武市立睦岡小学校教諭（前同市立日向小学校教諭） ふるかわ まさみ 布留川 正己

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編では、「データの活用」領域の充実・改善が図られ、統計的な見方・考え方の育成が重要視されている。本研究では、コロナ禍での学習も踏まえ、統計的な見方・考え方を育成するために、第6学年「資料の調べ方」の単元における、統計的探究プロセスに焦点を当てた短時間授業動画を作成した。授業動画を視聴した教員へのアンケートの結果、統計的探究プロセスを活用する指導の視点及びそれに対する教員の理解の深まりを明確にすることができた。また、教員の「データの活用」領域や統計教育に関する意識や指導方法などの実態を明らかにすることができた。

理科

**理科の考え方を働かせる理科授業の提案
ーフローチャート表現を活用してー**松戸市立根木内小学校教諭 なかや かずひろ 中谷 和弘

児童がフローチャートを活用することで、プログラミング的思考の要素の一つである条件分岐を意識し、理科の考え方を働かせて問題解決に取り組めるか検証した。フローチャート表現の条件分岐の使い方に焦点を定め、結果や条件制御が2択に分かれる観察や実験での活用を想定し、全学年のフローチャートの例を作成した。第5学年の「もののとけ方」において、食塩とミョウバンの水溶液を判別する方法を考えさせる活動を実施し、児童が条件制御の考え方を働かせながら判別方法を導き出し、フローチャート上の条件分岐を適切に扱えることが明らかになった。児童が筋道立てて自然の事物・現象について考える一手段として、今後も学年や単元を拡大して検証したい。

体育

**攻守一体ネット型ゲームを対象とした思考力を高める学習指導の検討
ーシンキングツールを活用した言語活動に着目してー**成田市立成田小学校教諭（前同市立美郷台小学校教諭） たけだ りょう 武田 涼

児童の思考力を高めるため、シンキングツールを活用した言語活動に着目し、中学年を対象に攻守一体ネット型ゲームであるハンドテニスの学習指導を行った。

分析には、単元間、運動領域間、学年段階の言語活動の成果の比較が可能になることから、分類学である「タキソノミー」を分析の視点とすることとした。

その結果、簡易化されたシンキングツールを活用したことで、「思考を伴う言語数」や、「理解」、「適用」における根拠付けられた言語数が増えたことから、言語活動の質を高めるための手立てとして、シンキングツールや本研究の学習指導が児童の思考力を高めることに有効であったことが明らかになった。

外国語

絵本を用いた効果的な指導法

ー児童が考えて、発話できる読み聞かせを用いた授業を通してー

茂原市立東郷小学校教諭 ^{やしろ}矢代 ^{ともみ}朋美

外国語活動の授業を行うに当たり、通常の小学校外国語活動教材の学習と併せ、毎時間継続して絵本の読み聞かせを組み込んだ学習を行った。児童の単元の内容や児童の発達段階に合う絵本を選定し、継続して読み聞かせを行うことで、絵本で使われた英語の発話数の増加と内容理解への高まりにとつながることができた。また、読み聞かせの中で絵本の内容や登場する単語などを考える視点を与え、児童に思考させる場面を意図的に設けることで、集中して話に耳を傾け、名詞だけでなく普段の耳なじみの少ない動詞や形容詞などの発話にもつながった。これらのことから、絵本を外国語活動の学習に用いることは、中学年の児童に有効であることが分かった。

道徳

最高学年として目指す姿について考えを深める道徳学習

ー児童の課題意識をもとにした道徳プログラムと対話型の交換リフレクションシートを通してー

香取市立佐原中学校教諭（前同市立小見川東小学校教諭） ^{ふじ が さき}藤ヶ崎 ^{はやと}逸人

本研究は、児童の課題意識をもとに、最高学年として目指す姿についての考えを深める道徳プログラムを構成し、振り返り活動に児童と教師の対話型の交換リフレクションシートを活用した実践研究である。それにより、道徳的価値に対する理解の深まりや最高学年として目指す姿への意識の変容、考えの深まりを検証した。

その結果、主体的に道徳学習に取り組み、道徳的価値をこれまでの自分の経験や感じ方と照らし合わせ、自分の生き方や目指す姿について深く考える児童が増えた。このことから、児童の課題意識をもとに作成した道徳プログラムと対話型の交換リフレクションシートの有効性が明らかになった。

生徒指導

個を大切にした学級（学校）における自己肯定感の育成 ー教師の経験（内省）から見えてくるものー

市川市教育センター副主幹（前市川市立国府台小学校教諭） ^{かわはた}川畑 ^{まさき}理気

経験豊富な教師は、子供のどのような言動から自己肯定感を図り、理解や支援を行っているのか。また、自己肯定感の育成を意識した効果的な生徒指導の在り方とはどのようなものか。この2点について、千葉県・千葉市教員等育成指標を構成する三つのキャリアステージにおけるステージⅡ【発展期】以上に該当し、自己肯定感を高めるための優れた指導実践を有する教師を対象に面接調査を行い、共通する視点を見出した。子供の適応感と教師の子供を見る視点との関連を探るとともに、自己肯定感が低い子供の特徴と効果的な対応について分類した。経験豊富な教師は、教師主導ではなく子供同士の関係構築を理想の学級経営と捉え、自己肯定感の育成に努めていることが明らかとなった。

特別支援教育

「10までの数・わくわくプログラム」を活用した数の指導の在り方
－「主体的・対話的で深い学び」の視点を通して－市川市教育委員会義務教育課副主幹（前市川市立須和田の丘支援学校教諭）^{の い やす こ} 野井 泰子

10までの数が理解できることを目的に「10までの数・わくわくプログラム」を作成した。教材は、Power Pointで作成し、タブレット端末で活用できるようにした。実践を通して、学習習熟度に応じた系統的な支援が可能になり、児童が主体的に取り組み、数の概念理解を促すことができた。タブレット端末の操作方法を身に付けることや、文字を手がかりに課題に取り組む姿も見られ、情報活用能力や教科等横断的な学びも可能であることが分かった。また、学習内容表や振り返りシートを作成し、PDCAサイクルに基づき、計画の立案・評価・改善を行うことで、個々の課題が焦点化され、「主体的・対話的で深い学び」につながる数の指導の在り方について明らかにすることができた。

特別支援教育

自立活動の指導における外部専門家による訓練の記録とその活用に関する研究
－児童生徒が医療機関等のPTやOTから受ける訓練に着目して－県立長生特別支援学校教諭^{ふじむら てっぺい} 藤村 鉄平

自立活動における外部専門家の助言や知見を得る機会の一つとして、児童生徒が定期的に医療機関等の理学療法士や作業療法士から受ける訓練に着目した。保護者の協力を得ながらその訓練の内容を記録する「訓練情報カード」を作成して、自立活動の指導への活用について検討した。教育と医療とは異なるものではあるが、本研究の調査を通じて、教員は、児童生徒が外部専門家から受ける訓練の内容を確認したり、記録に残したりしているということが明らかとなった。児童生徒の成長のために有効な手段となるのであれば、教育と医療との関係を肯定的に捉えて、それを実現する方策を検討・提案したいという思いを研究としてまとめた。

企業等派遣

豊かな就労生活を送るための支援を考える
－『やりたい』を『できる』に！－県立八日市場特別支援学校教諭^{たくぼ ただひさ} 田窪 宰久

私が千葉県立障害者高等技術専門校での研修を希望した理由は、年々高まる障がい者の離職率増加を解消する糸口を見いだすため、安定した継続支援に繋げていくためのノウハウを学びたいと思ったからである。結論として、「セルフマネジメントの向上」「日々の経験の積み重ね」の二つが、大きな課題であることが分かった。訓練生の声を聞き、一人一人のニーズに合わせた支援を講じることで、徐々に就労に向けて前向きに歩み出す姿が見られるようになった。

今回の実践と研修の成果を学校現場に持ち帰り、多くの先生方や生徒たちに還元していきたい。また、私自身、今後も精進してく所存である。